

別紙 1

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	岩手県
-------	-----

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	花巻市立宮野目小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	1	13	18
児童数	49	56	63	62	60	73	2	365	

研究の概要

1. 研究主題

基礎・基本の 定着を図る指導方法の工夫改善 算数科の指導を通して -

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<p>全学年 算数</p> <p>児童の実態から算数は、理解度に差が出やすく、また、昨年度の研究課題より基礎・基本 を定着させるためには、指導の工夫がより重要であることが求められているため。</p>

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 意欲的に基礎・基本を定着させるための指導の工夫</p> <p>研究の見通し 繰り返し取り組める学習指導の工夫や学習形態を工夫することにより、意欲的に学習に取り組むようになり、基礎・基本の定着が図れるだろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国語科の表現力の向上については、「国語科における伝え合う力の育成」を主題とし、校内研究に位置付け実践研究を行う。 ・ 算数科においては、次の3点に焦点を当てて実践を行う。 朝学習を効果的に行うための工夫。 家庭学習による課題の出し方の工夫 指導形態の工夫 (TT・少人数による算数科の指導)
--------	--

平成 15 年度	<p>テーマ 算数科における個に応じた指導方法の工夫・改善 - 数と計算領域の指導を通して -</p> <p>研究の見通し 算数科の「数と計算」領域において、児童一人一人の実態に応じた指導方法を工夫・改善していけば、どの児童にも基礎的・基本的内容を確実に定着させ自ら学び自ら考える児童を育てていくことができるだろう。</p> <p>研究内容・方法 次の2点に焦点を当て実践研究を行う。 少人数指導・習熟度別指導・TT指導等、個の実態に応じた指導方法・指導体制の工夫・改善 小・中連携による基礎的・基本的内容の見直しと授業実践</p>
----------------	--

平成 16 年度	<p>テーマ 算数科における個に応じた指導方法の工夫改善 - 数と計算領域の指導を通して -</p> <p>研究の見通し 算数科の数と計算領域において、児童一人一人の実態に応じた指導方法を工夫・改善していけば、どの児童にも基礎的・基本的内容を確実に定着させ、自ら学び自ら考える児童を育てていくことができるだろう。</p> <p>研究内容・方法 少人数指導・習熟度別指導・TT指導等、個の実態に応じた指導方法・指導体制の工夫・改善 小中連携による基礎的・基本的内容の見直しと授業実践 個に応じた指導のための学習教材の工夫・開発</p>
----------------	--

(3) 研究推進体制

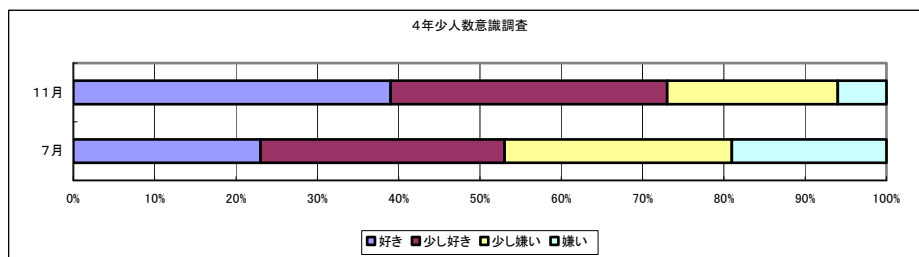
<p>研究推進委員会(学力推進委員会) 校内研究会組織(TT指導部会、少人数指導部会) 学校学力向上推進委員会(メンバー 校長・教頭・教務・研究部・外部委員)</p>

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

児童への意識調査の結果より

本校は、少人数指導によって2つのグループに分かれることへの不安をもつ児童が昨年度第3学年に多くいたことから、45分間授業の中に一緒に活動する時間を設けたり、板書やノート指導を揃えるなど、不安を取り除くための具体的な手立てを講じた。その結果、徐々に少し嫌い、嫌いの児童が減り、少人数指導の良い点をあげる児童が増えてきた。

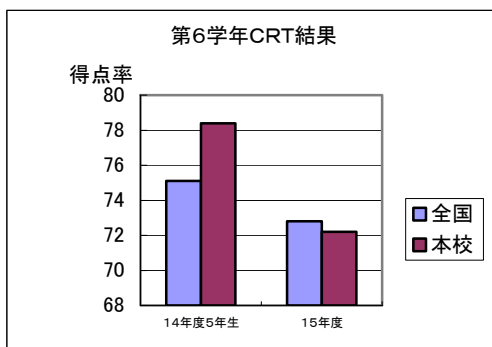
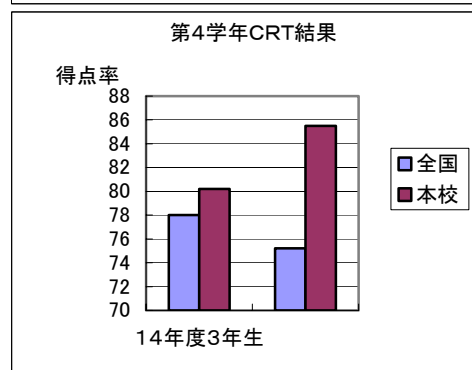
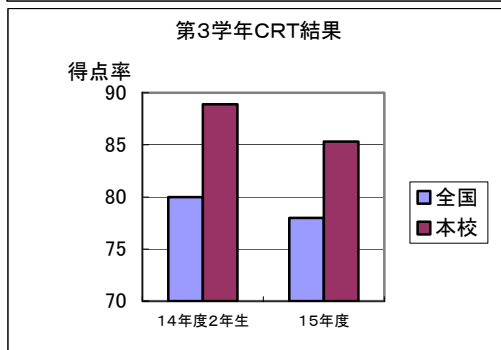
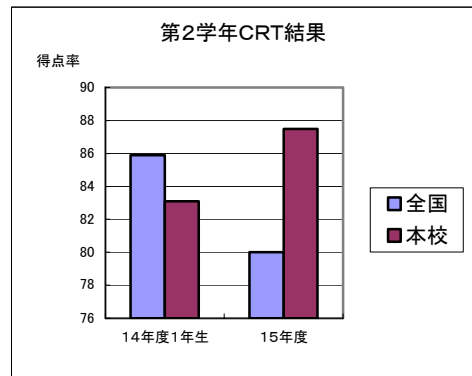
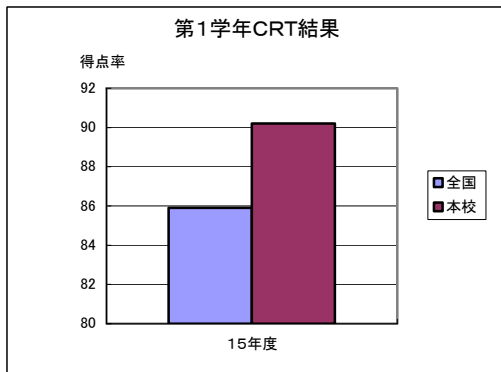


第4学年児童意識調査結果〔7月、11月実施〕

また、「数と計算」領域に焦点を当て実践を行ってきた結果、「数と計算」領域が得意と答えた児童が増加し、計算への自信がついてきていることがわかる

	得意	苦手
7月	72%	20%
11月	76%	16%

CRTの結果より 第5学年は未実施
同じ児童を本年度と昨年度で比較し、基礎・基本が定着してきたことが分かる。



2. 今後の課題

形態の工夫を行うためには、評価を基に児童の実態をさらに分析する必要がある。評価規準・判断基準を見直すとともに、より効果的な指導方法・指導形態を検討したい。

学年や単元によっては期待した成果が表れないことがあった。指導方法の改善とともに教材の工夫も必要である。また、進級や学級編成替えによる児童の心理状態によって少人数指導が効果を発揮しないことがあるため、学級経営なども含めて教員の共通理解を図っていく必要がある。

事前テストと事後テストの比較など、研究の成果を客観的に評価するためのデータをより計画的に蓄積し、活用することが求められる。

学力等把握のための学校としての取組

定期的な学力検査の実施

N R T (学年初め実施)

C R T (学年度末実施)

T T 意識調査・少人数指導意識調査 (7月・11月実施)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

研究会、説明会等の開催実績

- ・ 第1回学校推進会議

日 時 平成15年7月4日(金)

場 所 本校会議室

テーマ 今年度の学力向上について

対 象 校長 教頭 教務 フロンティアティーチャー 外部委員(P T A 会長)

- ・ 第2回学校推進会議

日 時 平成16年1月29日(木)

場 所 本校会議室

テーマ 今年度の学力向上について(成果と課題の報告)

対 象 校長 教頭 全職員 フロンティアティーチャー 外部委員(P T A 会長)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無